電子による書籍等見本送付サービスシステム

通称

“電子献本サービス”のご紹介

～新たな「出版物を紹介する」仕組みとして～

株式会社マイクロコンテンツ
鈴木道典
m-suzuki@microcontents.co.jp

株式会社クイーリー
嶋村龍介
rshimamura@query.co.jp

“電子献本サービス”のご紹介　目次

- 株式会社クイーリーと株式会社マイクロコンテンツについて
  - 講師紹介を兼ねて
- サービスの概要
- デモンストレーション
- 採用事例
- “電子献本サービス”運用にあたっての課題
- 新たな「出版物を紹介する」仕組みとしての今後の展開
- 「献本」に限らない“暗号化済み・閲覧期限付き”ファイルの活用

©2017 Microcontents, Inc.

2社の紹介

- システムを担当：株式会社クイーリー　https://www.query.co.jp/
  - 所在地　東京都千代田区岩本町3-1-9 リブラ岩本町Ｉ 9F
  - TEL：03-3861-2151　FAX：03-3861-2152
  - 創業　1986年3月、設立　　2000年5月18日
  - 資本金　2500万円
  - 代表取締役　嶋村信行
  - 本日の講師（サブ）　嶋村龍介

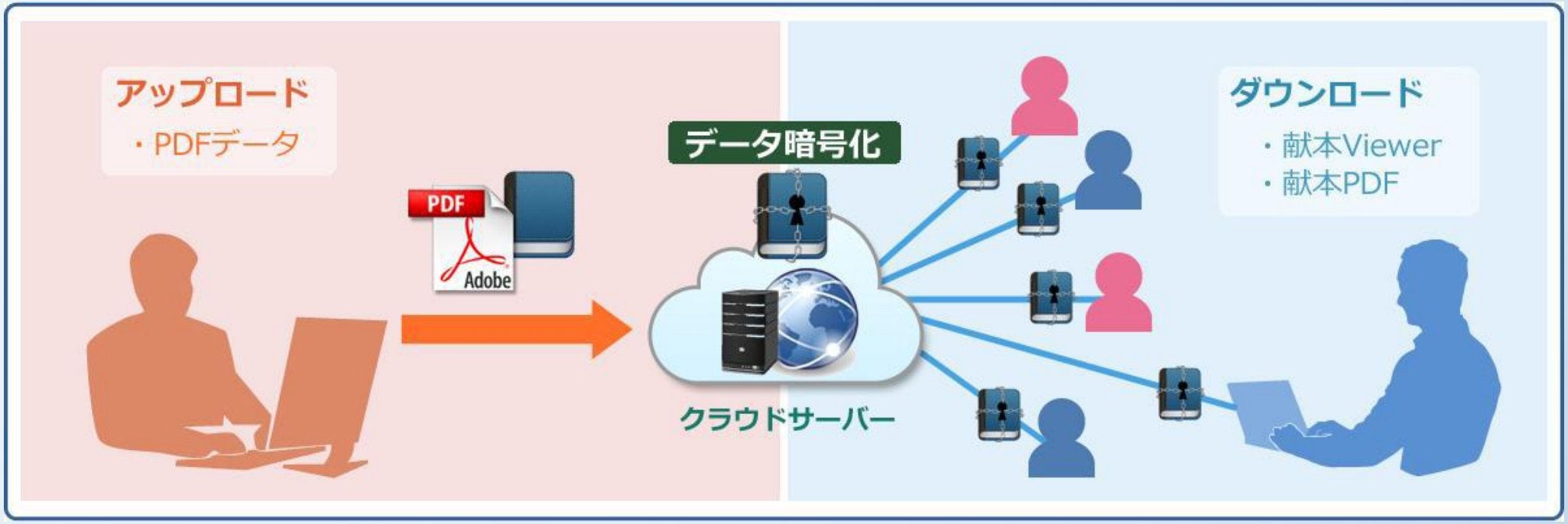
自己紹介
2011年㈱クイーリー入社
スマートフォンアプリケーション、Webアプリケーションのプログラミング担当

- 販売代理店を担当：株式会社マイクロコンテンツ　http://www.microcontents.co.jp/
  - 所在地　東京都中央区八丁堀4-12-7　サニービル7C　　業務内容詳細は　https://microcontents.net
  - TEL：03-6821-8871　FAX：03-6820-3536
  - 業務開始　2016年9月1日（旧社名BUZZ-2001年7月9日創業-を継承）
  - 資本金　5100万円
  - 代表取締役　鈴木道典
  - 本日の講師（メイン）　鈴木道典

自己紹介
1976年㈱有斐閣入社
六法編集部、雑誌編集部、電子メディア開発室勤務を経て
2010年取締役、2013年常務取締役、
2016年3月退職、同年4月から現職

©2017　Microcontents, Inc.

サービス概要――システムイメージ――



- システムの主な特徴

  ◆PDFデータの暗号化（AES128bit）　◆PDFファイルへの閲覧期限付与　◆献本ビューアでのみの閲覧

  ◆閲覧期限後のPDFファイル削除　◆献本ビューアはインストール不要

- 動作環境

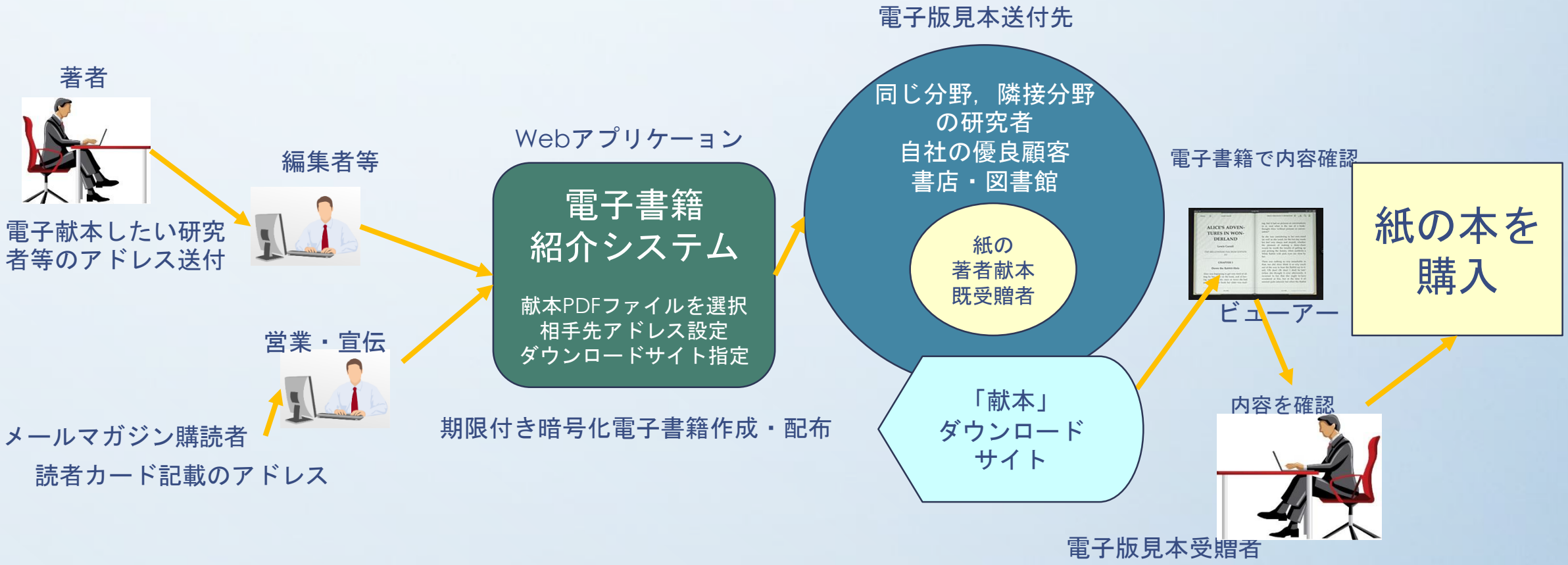
  ◆システム　対応ブラウザ：Internet Explorer，Microsoft Edge，Google Chrome，FireFox，Safari

  ◆閲覧（献本ビューア）対応ＯＳ：Windows7以降

©2017　Microcontents, Inc.

サービスの概要――利用方法（１）

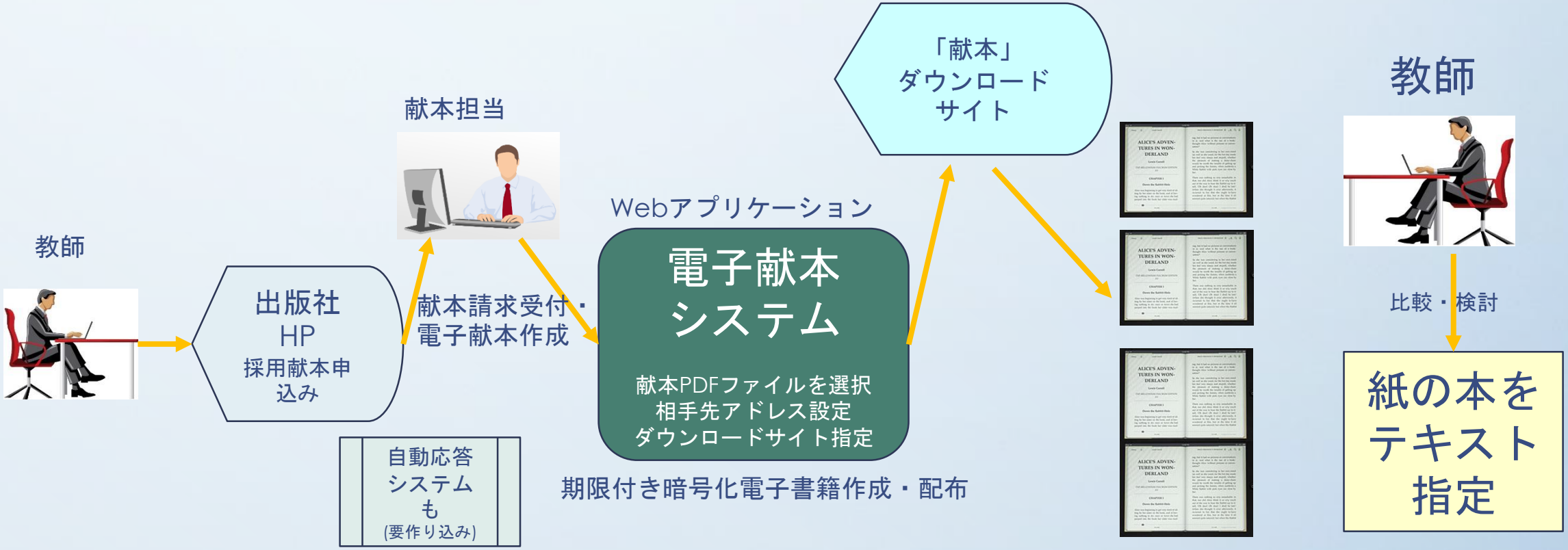
- 自著･自社書籍紹介システム



©2017 Microcontents, Inc.

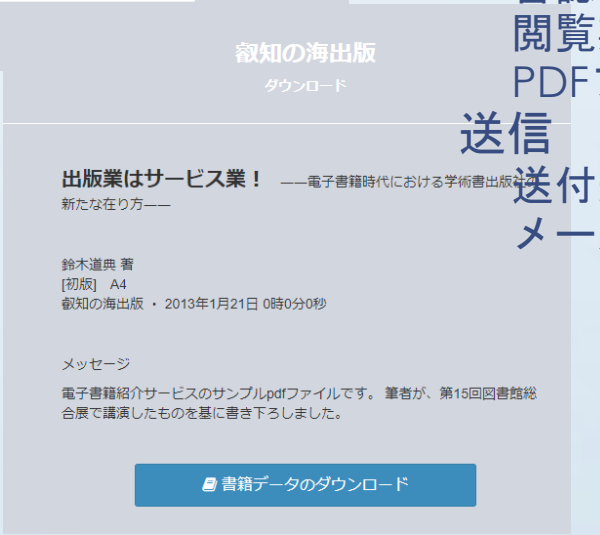
サービスの概要――利用方法（２）

- 採用「献本」システム



©2017 Microcontents, Inc.

デモンストレーション



オペレーションの流れ

送付側
- 準備作業
  - 送信PDFファイルの用意
  - 書誌等情報の用意
  - 送付先アドレス一覧の用意
- 電子書籍作成
  - PDFファイルのドラッグ＆ドロップ
  - 書誌取り込み
  - 閲覧期限等設定
  - PDFファイル暗号化
- 送信
  - 送付先アドレスの読み込み
  - メール本文等記入

受取側
- メール受信
- メール記載のURLにアクセス
  （ビューアーダウンロード）
  （ビューア解凍、インストール）
- 受贈書籍ファイルダウンロード
- ビューアーにドロップ
- 閲覧
  （紙の本の購入へ）

©2017 Microcontents, Inc.

採用事例

- 東京大学出版会
  - 初版部数は少ないが、定評のある専門書―南原繁記念出版賞受賞作品など―を著者と相談して所属学会の研究者等に著者から紹介。直接紙の本を贈呈できる人は限られているに加えて、書籍の内容まで読める場所（本が置いてある場所）も限られているため、このシステムを利用（自著・自社本紹介システム）
- 吉川弘文館
  - 月刊雑誌「日本歴史」毎号の記事の電子『抜き刷り』を関係分野の研究者に送付（自著・自社本閲覧システム）
- ジャパンタイムズ
  - 日本語書籍の海外からの採用献本請求に利用（電子「献本」システム）＜検討中＞
- テスト採用（検討中含む）
  - 慶應義塾大学出版会、勁草書房、みすず書房、有斐閣

©2017 Microcontents, Inc.

“電子献本サービス”運用にあたっての課題

- 「献本」状況の把握とフォローの仕組みが必要
  - 従来の仕組みでは編集部員（あるいは営業部員）から倉庫・配送業者に依頼、紙の本を送るため記録が残る。これを整理してのちの採用情報と照らし合わせることで、献本→採用の実情把握が可能
  - 電子「献本」のシステムでは編集部員（あるいは営業部員）が自分でシステムを利用することになる（倉庫・配送業者はシステム利用は無理）。
  - ここから起こること
    - 誰に送ったかのきちんとした把握ができない（人が出てくる）。
    - 送られた側でも「メールを見なかったのでまた送れ」などの要望が出てくる。履歴だけでは把握が難しい。
    - 「献本」したが、ダウンロードしてくれたかが把握しにくい。
    - 採用につながったかの整理が難しい（編集部員の資質によるところが大きい）。
- システムは「献本」に特化、別の社内「状況・結果の整理システム」との連動で。
  - 個人情報の蓄積は、サーバ側でなく、社内システムで。
- ビューアーの改善とモバイル対応
  - 横スライド、ページめくり機能などの付加
  - iOS、Androidのモバイル機器への対応も

©2017 Microcontents, Inc.

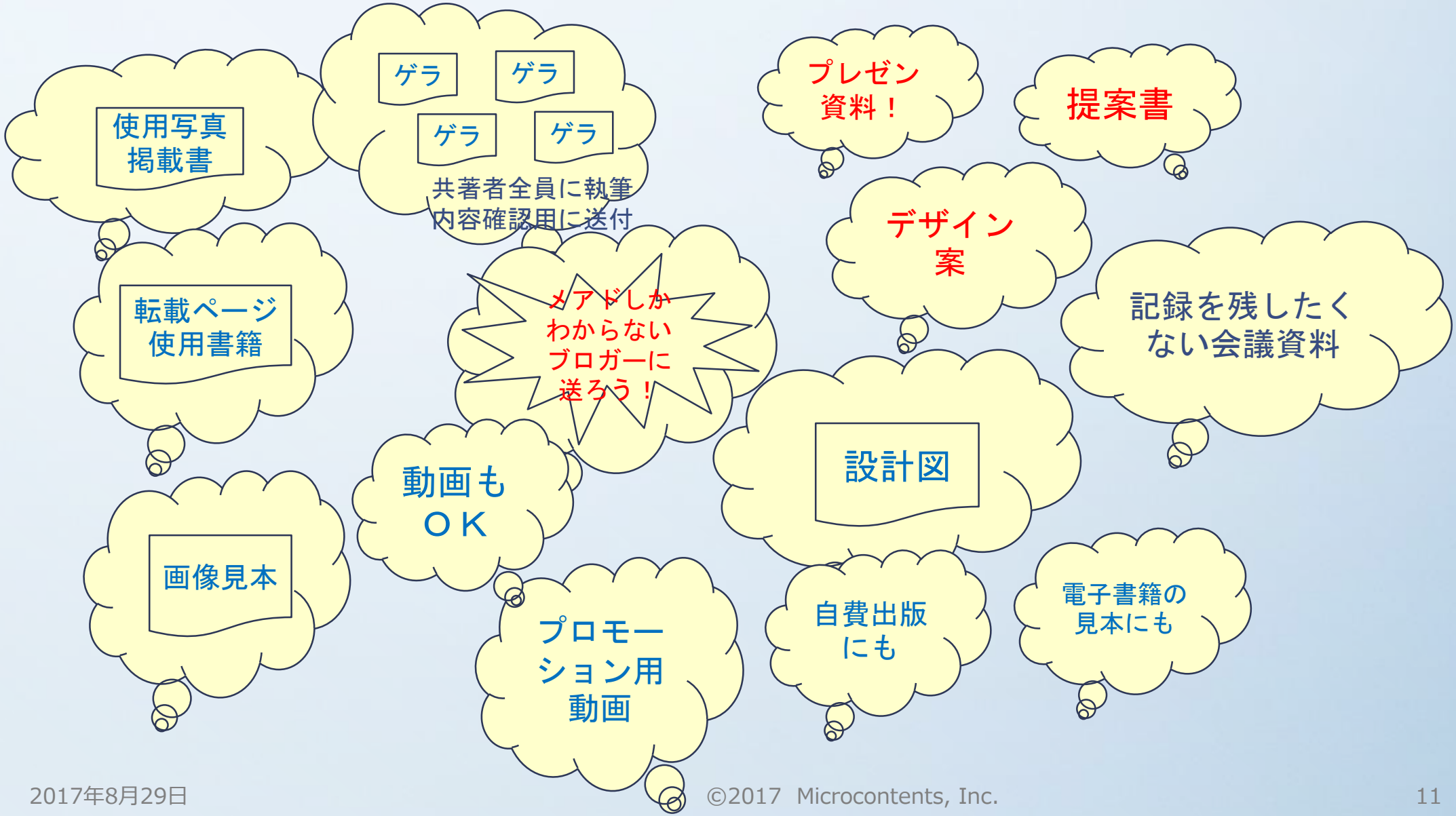
新たな「出版物を紹介する」仕組みとしての今後の展開

- 「閲覧期限付き」を活かしたバーチャル書棚・書店の可能性
  - 書店の文庫売り場を補完する電子目録（背表紙表示のバーチャル書棚）
    - 立ち読み要求に応える仕組みの付与で
  - 制作部数の少ない学術書・専門書用生協・購買施設内バーチャル書棚、
  - 学術書・専門書出版社の共同バーチャル書店
    - 大学生協等のレジを、紙の本の受取場所・支払場所に
  - コンビニとのコラボによるバーチャル書棚、駅のそばの小規模書店内のバーチャル書棚
    - 買った本をいつでも受け取れる・受け取りやすい場所として
    - 家でも本を注文できるバーチャル書棚アプリの提供による顧客囲い込みも可能

      ※将来的には電子書籍の立ち読みと購入システムに発展する可能性大

©2017 Microcontents, Inc.

「献本」に限らない“暗号化済み・閲覧期限付き”ファイルの活用



©2017 Microcontents, Inc.

“電子献本サービス”の価格

- 出版社は各社それぞれ「献本」や「見本進呈」など異なる目的や仕方。
- 一律の価格を提示して利用していただくのは困難と判断。
- 以下のような考え方を例として、各社の利用の仕方に応じた利用料をご相談で。

- 自著・自社書籍紹介システム
  - ◆定額利用
    月額：３万円（スタンダード・コース、3GB）、5万円（プレミアム・コース、10GB）
  - ◆従量利用
    送付済み書籍数（1冊～2000冊以上）×定価（本体価格）×10%～1%逓減方式（1ヵ月集計）
- 採用「献本」システム（閲覧者制限付き）
  - ◆定額利用
    月額：7万円（スタンダード・コース、10GB）、10万円（プレミアム・コース、30GB）
  - ◆従量利用
    送付済み「献本」数×定価（本体価格）×10%（1ヵ月集計）
    （※初期アカウント設定費用：一律1万円、スタンダード・コース：１、プレミアム・コース：３）

©2017 Microcontents, Inc.